

【巻頭言】

「年頭にあたって 新年あけましておめでとうございます。」

学友会 会長 埜藤 眞純

会員の皆様には、ご健勝で新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素から学友会活動に対し、深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

会長就任後、支部とのパイプ役として支部総会に出席させていただいております。これまでに7支部から案内をいただき、その内5支部に出席させていただきました。席上皆様方から忌憚のないご意見をいただき、また母校や後輩を気遣う熱い気持ちに触れさせていただき学友会の結束を心強く感じています。総会・懇親会への若い人たちの参加も増えつつあり支部役員の方々の若返りへのご努力に感謝いたします。

さて、母校は学園発足80周年に当たる昨年、私たちの積年の願いが叶い、全国で24番目の全日制の4年制大学として新たな一步を踏み出しました。母校では「医療科学に関する高度の知識及び科学技術について教授・研究するとともに品性を陶冶し、国民の保健医療の向上に寄与できる有為の医療専門職を育成する」を基本理念に学生の教育にあたられています。学友会もこの理念を理解し母校の伝統を引き継ぎたいと思います。大学となったことで、求人大学の卒指向や高度化・多様化する放射線技術や関連技術への対応などを考えるとたいへん喜ばしいことです。

ところで医療現場では、医師不足による診療科の削減、勤務医の過重労働、産科救急のたらい回しなど地域医療の崩壊が社会問題となり、2007年4月には改正医療法が施行され改革が進められようとしています。

また、私たち放射線技師にも変化の波が押し寄せています。日本放射線技師会では規制改革・民間開放推進会議の第3次答申を受け、生涯学習システムの導入により医療人としての資質や日進月歩の専門性維持を担保し、免許の更新制度に柔軟な対応ができるよう検討がなされています。資質向上・高度な専門性を極めるには継続的に勉強することが必要で、特に資質の向上には教養の幅広さが求められます。

鈴木光司氏の著書「なぜ勉強するのか」ソフトバンク新書には次のように書かれています。幅広く勉強することの目的・意義は、理解力・想像力・表現力の三つの力を養うことで、この力をつけることにより膨大な情報の中から必要な情報を取捨選択することができ、物事を合理的・論理的かつクリアに、よりよい決断が下せるのだと言っています。いま資質の高い医療人として国民のニーズに真にこたえていかなければならない放射線技師にも当然求められるものであると思います。若い世代の人たちには「よりよい未来を切り開くために幅広く継続的に勉強して欲しい」と願い心からエールを送ります。

最後になりましたが、平成19・20年度の事業計画である「京都医療科学大学学友会」の名に相応しい事業、卒業生を暖かく迎えることのできる事業を継続して行います。また、新たな取り組みとして、学友会ホームページについて、迅速な情報伝達と有効活用のため見直したいと思っています。

学友会事業は皆様のご協力、ご支援なくしては達成できません。寄せられた会員の声に耳を傾け、長期的観点より今後の学友会としてのあり方を考えていきたいと思っております。今年も会員各位の暖かいご支援、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

以上

* 通巻186号 2008年1月10日発行(H19-No.4)より